

グローバル化での問題 ヒントに

地球規模の視点で地域の具体的な問題を探る学際NPO「GN21」(本部・京都)が「グローバル世紀への挑戦 文明再生の智慧」を出版した。1997年から出版するシリーズの7冊目で、一つの区切りをつける。代表の片岡幸彦さん(78)は「グローバル化という課題に取り組んできた議論の結節点。次は、未来へ提言していく新たな活動の段階に入りたい」と語る。

(河村亮)

「グローバル化の分析、研究を踏まえて、これからは提言していく」と語る片岡幸彦さん(京都市右京区)



学際NPO「GN21」区切りの7冊目刊行

1997年からグローバル化の課題に取り組んだこれまでの著書と新著「グローバル世紀への挑戦」



さらに未来への提言に意欲

評論家の故加藤周一さんが代表を務め、片岡さんが責任編集した春秋季刊誌「グリオ、第三地域から世界へ」。同誌を発行した「現代世界と文化の会」が前身となり、GN(グローバルネットワーク)21が97年に発足。約50人の研究者を会員に、国内外の研究者との交流の中で共同研究を進め、6冊の本を出版してきた。「地域横断的に世界で起きている問題についてつかまえられる。それは一つのヒントになるはず」

点を加えた。執筆は立命館大国際関係学部特任教授の安藤次男さん、同大国際平和ミュージアム名誉館長の安齋育郎さんら多分野から参加。ベトナムのインターネットと民主化、イスラム国家モロッコの民主化問題、親鸞の思想をはじめ、移民問題を通してとらえた「グローバル化」とワールドミュージックの「関係性」や、文化的ローカルズムを考察する「沖繩の吉野家はなぜカウンタースクエアがないのか」など身近なテーマからも論考している。

集大成の7冊目に向け、2006年から計6回の合同研究会を開催した。グローバル化が地域に具体的に何をもちたっているか示すとともに、法政治、経済面だけでなく、文化的側面から論考。21世紀の問題も伝統文化や文明から学び取る歴史的視

点を加えた。執筆は立命館大国際関係学部特任教授の安藤次男さん、同大国際平和ミュージアム名誉館長の安齋育郎さんら多分野から参加。ベトナムのインターネットと民主化、イスラム国家モロッコの民主化問題、親鸞の思想をはじめ、移民問題を通してとらえた「グローバル化」とワールドミュージックの「関係性」や、文化的ローカルズムを考察する「沖繩の吉野家はなぜカウンタースクエアがないのか」など身近なテーマからも論考している。

21世紀に入ってもテロや戦争、混乱は深まるばかり。ギリシャに端を発した世界金融不安など、閉塞状況は国を超えて瞬く間に広がる。片岡さんは「今までに分析し、問題提起してきたことを土台にして、自由な立場から出版やシンポジウム、講演を通して22世紀に向けて提言していきたい」と意欲的だ。文理閣刊。2940円。